

らいほうしん
来訪神行事の提案概要

1. 名 称

来訪神：仮面・仮装の神々

2. 内 容

仮面・仮装の異形の姿をした者が、「来訪神」として、年の初めや季節の変わり目などに家々を訪れ、子供や怠け者を戒めたり、人々に幸や福をもたらしたりする行事。

3. 分 野

年中行事（儀式 rituals）

4. 構 成

国指定重要無形民俗文化財である「来訪神」行事 8 件

- ・ 飫^{ごしき}島のトシドン（鹿児島県薩摩川内市）
- ・ 男^お鹿のナマハゲ（秋田県男鹿市）
- ・ 能^の登^とのアマメハギ（石川県輪島市・能登町）
- ・ 宮^{みや}古^こ島のパーントウ（沖縄県宮古島市）
- ・ 遊^ゆ佐^さの小正月行事（アマハゲ）（山形県遊佐町）
- ・ 米^{よね}川^{かわ}の水かぶり（宮城県登米市）
- ・ 見^み島^{しま}のカセドリ（佐賀県佐賀市）
- ・ 吉^{よし}浜^{はま}のスネカ（岩手県大船渡市）

5. 保護措置

伝承者養成，記録作成，用具修理・新調，普及促進 等

6. 提案要旨

- 「来訪神：仮面・仮装の神々」は，正月など年の節目を迎えるに当たり，仮面や蓑（みの）笠（かさ）などを身につけて来訪神に扮（ふん）した者が家々を訪れ，子供や怠け者を戒めたり，災厄をはらったりし，人々に幸や福をもたらす行事である。
- 来訪神行事は，伝承されている各地域において，時代を超え，世代から世代へと受け継がれてきた年中行事であり，それぞれの地域コミュニティでは，来訪神行事を通じて地域の結びつきや，世代を超えた人々の対話と交流が深められている。
- 「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表への記載は，地域の人々の絆（きずな）としての役割を果たしている無形文化遺産の保護・伝承の事例として，国際社会における無形文化遺産の保護の取組に大きく貢献するものである。

(別紙)

(参考) これまでの経緯

平成21年 9月 ユネスコ無形文化遺産保護条約第4回政府間委員会（アブダビ・アラブ首長国連邦）において「甑島のトシドン」がユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載される。

平成23年11月 同第6回政府間委員会（バリ・インドネシア）において「男鹿のナマハゲ」が「情報照会」の決議を受ける。